



(1) 大岡山Day

専門分野や将来の進路を異にする東京科学大学のすべての新入生が、4月と5月の毎週月曜に大岡山キャンパスで共修することにより、さまざまなテーマについて異なる立場や視点から対話を重ね、新たな気づきや刺激を得ること、大学・人間社会が持つ多様性への認識を深めることを目的としている。医歯学系の学生と理工学系の学生が同じ教室のなかで共に学び考えながら相互の関係を構築していくことで、課外活動も含めた交流を促進し、教育におけるシナジー効果を創出することもねらいの一つ。

(2) 立志プロジェクト

医歯学系と理工学系学生の共修授業である「立志プロジェクト」は、東京科学大学のすべての新入生の必修科目であり、クラス内での少人数ディスカッションと、オンデマンド講義から構成される。

(3) 医歯理工融合プログラム

理工学系所属学生が医歯学系の基礎知識や研究スキルを、医歯学系所属学生が理工学系の基礎知識や研究スキルを学修することにより、高度な研究開発を実施できる課題探求型の研究者・技術者・医療者を育成することを目的とした、学士課程学生向けの特別専門学修プログラム。

(4) 四大学未来共創連合

お茶の水女子大学は、74年ぶりの新学部「共創工学部」を2024年度に発足させるなど、工学系女性リーダーの育成に取り組んでいる。お茶の水女子大学の参加に伴い、各大学の強みを活かした新たな「社会課題解決型共同教育プログラム」の構築を目指す。これまでの学士課程レベルでの教育連携に加え、大学院レベルの展開を進める。



湯島キャンパス



大岡山キャンパス



国府台キャンパス



立志プロジェクト

エンズ」により、社会的インパクトを生み出す研究を展開する「未来社会創成研究院」、企業との組織的な連携による共同研究を実施し、新産業創出につなげる「新産業創成研究院」、病院を舞台に医工連携を進める「国際医工共創研究院」です。

女性の活躍支援をはじめDE&Iの活動を活発化

学生生活での交流も進んでいます。学生支援センターを中心に昨年度から学生同士の相談活動（ピアサポーター活動）など、教育的な課外活動やイベントの共同実施を始めました。田中学長は、「東京医科歯科大学は看護学科があることなどで女性の比率が多く、東京工業大学は男性の比率が多かったのですが、二つの大学が合体することで、ジェンダーバランスがよくなりました。これは学生のクラブ活動から最先端の研究まで、よい影響を与えています」と話します。また、東京科学大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン推進宣言を公表し、女性の活躍支

援、外国人および障がい者等の活躍支援など、DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）にかかる諸施策を総合的に展開しています。今年7月1日、東京科学大学、東京外国語大学、一橋大学による三大学連合に、お茶の水女子大学が加わり、四大学未来共創連合（Future Leading Innovation Partnership（FLIP））として新憲章を締結しました。お茶の水女子大学は、グローバル女性リーダーの育成を使命としています。その参画により、ジェンダーバランスの改善のみならず、DE&Iの推進を加速することが期待されています。

人々を幸せにする科学を一緒に実現していく

入試については、旧東京医科歯科大学および旧東京工業大学と同じ入学者選抜試験を実施していますが、2028年度学士課程一般選抜（前期日程）で、一部に試験科目や試験時間の変更を行います。

具体的には、理工学系の生命理工学院の志願者は、理科の受験科目として「化学、生物」の2科目を選択できるように変更。化学（必須）と物理、あるいは化学（必須）と生物で受験できるようになります。また、理学院、工学院、物質理工学院、情報理工学院、生命理工学院、環境・社会理工学院では数学の試験時間を従来の180分から150分に、理科の試験時間を各科目120分から

90分に変更します。

また、ダイバーシティ&インクルージョンを実現するための第一歩として、理工学系では昨年4月の入試から、総合選抜および学校推薦型選抜において、女性のみが出願可能な女子枠を設けています。

一方、首都圏出身の入学者が圧倒的に多いことから、医学部医学科で「地域特別枠推薦選抜（茨城県・長野県・埼玉県）」を実施するのをはじめ、地方出身者への奨学金や資金貸与制度を充実させています。

田中学長は「世界に開かれた大学にするために秋入学を増やすことを構想しています。英語だけで卒業できるコースも視野に入れ、留学生が日本人の学生と交流する機会を増やせるような環境を整えたい。将来的には、理工学系からの医歯学系への編入ができるようにしたいと考えています。そうすることによって、医工連携を一人の人間の中で実現できるようにになります」と語ります。

そして、「東京科学大学の欧文名はInstitute of Science Tokyoであり、略称はScience Tokyoです。私たちの世代は、サイエンスは世の中を明るくしていくイメージでした。ところが、今は環境問題など科学技術に負の側面も注目されるようになりました。科学のイメージをもう一度よいものに戻したい。そのためにScience Tokyoに入ってください。人々を幸せにする学問と一緒に実現していきます」とエールを送っています。



田中雄二郎学長

1980年、東京医科歯科大学医学部医学科卒業。1985年、同大学大学院医学研究科博士課程修了。同大学医歯学融合教育支援センター長、医学部附属病院長、理事・副学長を経て2020年、同大学長。2024年10月、東京科学大学の発足に伴い現職。

東京科学大学（Science Tokyo）は、東京工業大学と東京医科歯科大学が統合して2024年10月に誕生した国立大学です。『科学の進歩』と『人々の幸せ』とを探究し、社会とともに新たな価値を創造することをミッションに掲げています。世界に開かれたScience Tokyoとしてグローバルな課題に取り組み、母体となった二つの大学の伝統と先進性を活かしながら、どの大学もなしえなかった「新しい大学のあり方」を創出します。

Science Tokyoの特長である専門教育はもとより、文理融合・領域横断型の教育プログラムを提供し、未来につなぐ教育を実践しています。こうして、人文科学、社会科学の視点も含めた「科学」の発展を担い、社会とともに活力ある未来を創る人材を育成し、社会から頼られるパートナーとなることを目指しています。

東京科学大学

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1 総務企画部広報課 TEL 03-5734-2975 <https://www.isct.ac.jp/ja>

領域横断型教育で高度な専門的人材を育成

東京科学大学は、母体となった二つの大学で培った教育の理念と方針を基盤として、自ら学び考え、将来、世界を舞台として活躍する高度な専門的人材の育成を目指しています。世界最高水準の研究の中に学生を招き入れ、自ら学び考える教育を推進することが特長と言えるでしょう。理工学系、医歯学系の専門教育はもちろんのこと、文理融合・領域横断型の教育プログラムを提供し、リベラルアーツや汎用的なスキルを磨くことで社会とともに新たな価値を創造する力を育みます。

その好例が、学士課程新入生を対象に、全員が大岡山キャンパスに集い、学ぶ「大岡山Day[®]」です。全新生共通の必修科目「立志プロジェクト[®]」などをともに学ぶことで、学院・学部間の垣根を超えた相互交流を図ります。

専門分野についても、自身の専門分野とは異なる理工学系分野または医歯学系分野を体系的に学ぶことが

できる「医歯理工融合教育プログラム[®]」と「大学院特別専門学修プログラム」がスタートしました。

理工学系に入学した学生は、学部と大学院を統一した組織である「学院」に所属します。学院では、学士課程と修士課程と博士後期課程の教育カリキュラムが継ぎ目なく学修しやすき設計された教育体系を提供しており、学士課程2年目から系に所属し、大学院進学後は系からコースへと豊富な選択肢からより広く深く学ぶことができます。

一方、医歯学系に入学した学生は、学部・研究科で学びます。1年次は、緑豊かな千葉県市川市の国府台キャンパスで、医療人としての教養、人間としての力を身につけるための教養教育を受けます。湯島キャンパスでの専門課程では、多職種連携教育も充実させています。保健・医療・福祉の専門職について知ること多職種連携の重要性を学び、それぞれの将来像を共有することを目的としています。

革新的な異文化融合で世界レベルの研究推進

東京医科歯科大学も東京工業大学もリサーチユニバーシティとして数多くの世界最先端の研究を推進してきましたが、東京科学大学では、医歯学と理工学の融合により社会へのさらなる貢献を目指すという思いのもと、革新的な異分野融合研究プロジェクトを進めています。

一例を挙げると、材料工学と難治



四大学未来共創連合の各大学トップと田中学長（左）